

# 「原子力損害賠償の完全実施を求める福島県総決起大会」【概要】

■日 時 平成23年9月2日（金）13:00～14:30

■場 所 憲政記念館

■出席者 協議会役員、協議会構成団体（各種団体、市町村）

県選出国會議員、県議會議長 ほか 約200団体、400名の参加

## ■内 容

### 1 会長あいさつ【協議会会長 佐藤雄平（福島県知事）】

- この未曾有の原子力災害が、年が経過し風化してしまう懸念があり、東京から全国に向けて発信するために参集していただいた。
- 先般の中間指針では、まだまだ足りないことがたくさんある。
- 9月12日から東京電力に対する請求が始まるが、我々の要望が達成できるように皆さんと一緒に心をつにして頑張る。



## 2 原子力損害の実態報告

### (1) JAグループ東京電力原発事故農畜産物損害賠償対策福島県協議会

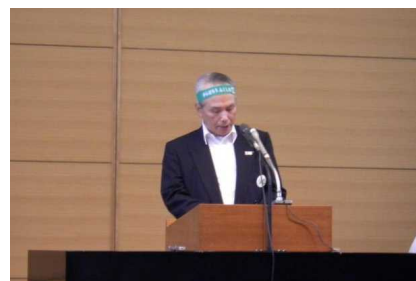
副会長 大橋信夫



- 3月11日の震災により農業が一変した。農地等の損壊により3千haが作付不能となり、津波により6千haの農地が海水に浸かった。
- 安全と言われてきた東電があつてはならない事故を起こし、放射能をまき散らした。農地など土地の除染が必要であり、国に強く求めていく必要がある。
- 農家が被った損害として、JAグループでまとめて175億円請求しているが、58億円（全体の請求額に対する30%）しか支払いがない。

### (2) 福島県旅館ホテル生活衛生同業組合 理事長 菅野豊

- 大きな経営危機となっており、160日間、4つの案件をこなしてきた。①防災協定により被災者を1万8千人受け入れた。②バブル、デフレ、金融危機、震災と旅館経営が揺らいでいる中、死活問題と闘っている。③原子力損害賠償紛争審査会において、予約キャンセル等の被害が原子力災害によるものだと訴え、全国で初めて風評被害として認められた。④秋のトップシーズンを迎え、観光客の大幅な減少が見込まれる厳しい状況に全力で対応していく。
- 先を見据え事故が収束するまで、福島県の明るい未来のため断固闘うので、関係者の大きな支援をお願いしたい。



**(3) 福島県私学団体総連合会 副会長 岡部隆男**

- 子どもの悲痛な叫びに満ちている。女の子は大人になったら赤ちゃんが産めないのか、将来ガンになるのかとの声がある。
- 毎日、先生方は $1.0\mu\text{Sv/h}$ 以上の場合には借金をしてまで除染をしている。表土除去をしたとしても、どこに持って行ったらよいか困っている。
- 将来の復旧・復興の担い手がない状況になってしまう。安心して学べる福島県を返してほしい。子どもの希望・未来を奪わないでほしい。



**3 決意表明・決議採択**



**【協議会副会長 庄條徳一（JAグループ 東京電力原発事故農畜産物損害賠償対策福島県協議会会長）】**

- 国会議員の先生方には、県民の切なる思いを国政に繋いで頂きたい。
  - ※ 決議書の読上げ、採択。

**4 要望書・要求書採択 【代表者会議議長 松本友作（福島県副知事）】**

- ※ 要望書・要求書の説明、採択。

**5 福島県議会議長あいさつ【県議会議長 佐藤憲保】**

- これまで40年間、原子力発電は安全であるとの説明を信じて、県議会は国策に協力してきた。
- 200万県民のため、県議会は総力を挙げて、皆さんと共に原子力損害賠償の完全実施を目指す。



**6 県選出国會議員決意表明 ※発言順**

**(1) 渡部恒三議員（衆議院 民主党）**

- 原発事故に苦しんでいる県民を思うと胸が痛くなる。今、厳しい批判を受けているが、東電の責任は徹底的に追求する。福島県は国策に協力したのだから、美しい福島に戻すのは、最後は国の責任である。



**(2) 荒井広幸議員（参議院 新党改革）**



- 国はすべての責任を負わなければならない。第一の責任は東電にあるが、一企業が賠償できるものではない。福島が子々孫々までの闘いに勝たなければならない。風化しないように法律などで支援対策を行う。

(3) 岩城光英議員（参議院 自由民主党）

- 子どもたちが希望を持てる福島を再構築しなければならない。皆様と協力し、政府、東電に強く要請していくことを誓う。



(4) 増子輝彦議員（参議院 民主党）



- 東電が賠償するのは当たり前である。しかし、東電ができない場合は国の責任で行う。時間の経過とともに、悲痛な叫びが風化し、国民に福島県民のわがままだと思われなかと心配している。安全な生活を取り戻し、子どもたちが住んでよかったと思えるようにしたい。

(5) 吉野正芳議員（衆議院 自由民主党）

- 福島県民の人口が200万人を下回ってしまった。縮んでしまっただけではダメであり、伸びる福島が必要である。原子力損害賠償の完全実施を目指し、福島県を大きく伸ばしたい。



(6) 吉田泉議員（衆議院 民主党）



- 現在は、原発事故で失った財産、目減りした収入等の全額賠償を求めるステップ1の段階。本日採択された決議等を国、東電に強力にぶつけていく。そして、そろそろステップ2として、沖縄振興法のような福島県全体を経済振興する特別立法を具体的に議論する時期。200万県民のためお互いの力を合わせる。

(7) 太田和美議員（衆議院 民主党）

- 安心した生活を1日でも早く取り戻せるよう県民総意として国に働きかける。与野党関係なく、県民党として福島県選出国會議員14人が強く働きかける。



(8) 森まさこ議員（参議院 自由民主党）



- 被害者から加害者に請求するには相当因果関係が必要であり、賠償されるかどうかは法律によって違う。原子力損害賠償法及び同法に基づく中間指針だけでは完全賠償は無理である。東電の支払いで足りないところは、仮払法により国が支払う。最後まで闘う。

(9) 金子恵美議員（参議院 民主党）



- 福島には美しい空、人々がいる。何よりもすばらしい心がある。ふるさとの伊達市は原発がなければなくてよいことをしている。損害賠償をしっかりと進める。福島の問題は全国の問題。全力で命を懸け、復活のため頑張る。

(10) 山口和之議員（衆議院 民主党）

- 一人も漏れることなく賠償されるようにしたい。福島に生まれ福島を愛している。明るい未来のため全力で闘う。



(11) 石原洋三郎議員（衆議院 民主党）



- あらゆる分野で深刻な影響が出ている。一日も早く復旧・復興が果たせるよう精一杯取り組む。

※ 以下の先生方については、所用により代理の方が出席しました。

玄葉光一郎議員（衆議院 民主党）

小熊慎司議員（参議院 みんなの党）

佐藤正久議員（参議院 自由民主党）

## 7 ガンバロー三唱

### 【協議会副会長 瀬戸孝則（福島県市長会会長、福島市長）】

- 世界も類を見ない未曾有の大災害に、200万県民はこの半年間頑張ってきた。
- ようやく賠償の枠組みが不完全ながら提示された。
- 国会議員の皆様には完全賠償を実現してほしい。
- 新内閣が成立した今日、われわれの戦いも第2ステージに入ってきた。200万県民、そして世界が見ていることを肝に命じ、国政の場で損害賠償を確実に進展させてほしい。

〈ガンバロー三唱〉

